令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音４】

【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）　　【実施日】令和８年１２月８日（火）

担当大学名	公立大学法人　沖縄県立芸術大学			
会　場	（会場名）　沖縄県立芸術大学　（首里当蔵キャンパス 音楽棟４階　大合奏室・小合奏室） （所在地）　〒903-8602　沖縄県那覇市首里当蔵町１－４			
講　師 （肩書・氏名）	・教　授　仲嶺　伸吾（琉球古典音楽・安冨祖流） ・准教授　新垣　俊道（琉球古典音楽・野村流）			
対　象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 （該当欄に〇）	参集　〇 オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	五感で楽しみ考える沖縄の伝統音楽　～歌三線から探る沖縄の伝統音楽の魅力～
研修内容の概要	かつて「琉球」と称された沖縄県は、1429年から約450年間にわたり独自の王政国家を築いていた。アジア諸国や日本との活発な交易を通じて、多様な芸術・文化を吸収・融合させながら、独自の海洋国家としての文化を発展させてきた歴史を持つ。 　この歴史的背景から生まれた琉球古典音楽や民謡には、沖縄の人々の「思い（ウムイ）」が深く込められている。沖縄戦直後の人々の心を癒やし、復興の大きな原動力となっただけでなく、世界各地の移民先でも同胞の心の拠り所となってきた。すなわち、沖縄の音楽は単なる芸能にとどまらず、人々の生きる力そのものであったと言える。 　本研修は、三線の実技を通して伝統音楽の特徴を体得するとともに、その背景にある歴史的・文化的価値を学ぶものである。これらを踏まえ、学校教育や地域活動の現場において、子どもたちが郷土の音楽に自然と愛着を持てるような、具体的かつ実践的な指導法や授業づくりの工夫を探求する。
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科： 第１学年、第２学年及び第３学年「Ａ表現」⑴歌唱ア、イ(ｱ)、ウ(ｱ)　⑵器楽ア、イ(ｱ)、ウ(ｱ)　「Ｂ鑑賞」⑴鑑賞ア(ｳ)、イ(ｲ)(ｳ)　〔共通事項〕⑴ア、イ 高等学校芸術科（音楽）： 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ「Ａ表現」⑴歌唱ア、イ(ｱ)、ウ(ｱ)、⑵器楽ア、イ(ｱ)、ウ(ｱ)、「Ｂ鑑賞」⑴鑑賞ア(ｳ)、イ(ｲ)(ｳ)〔共通事項〕⑴ア、イ 音楽Ⅲ「Ａ表現」⑴歌唱ア、イ(ｱ)(ｲ)、ウ　⑵器楽ア、イ(ｱ)(ｲ)、ウ　「Ｂ鑑賞」⑴鑑賞ア(ｳ)、イ(ｲ)(ｳ)(ｴ)　〔共通事項〕⑴ア、イ
内容と方法	１、講義 　〇琉球・沖縄の歴史とさまざまな音楽について 　〇三線の構造、素材、楽譜（工工四）、調弦法、琉歌（歌詞）の特徴について ２、鑑賞 　〇琉球古典音楽と沖縄民謡の鑑賞を通して、その違いや特徴を学ぶ ３、実技研修 　〇三線の初歩的な扱い、構え方、持ち方、姿勢について　・「てぃんさぐの花」「安波節」の実技研修

<table>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="3">①実技の習得
歌三線の独唱により、「てぃんさぐの花」および「安波節」の演奏ができるようになる。
②音楽的特徴の理解
実技研修、演奏、および鑑賞を通して、沖縄の伝統音楽特有の音階やリズムなどの「特徴」を理解し、「よさ」を味わう。
③歴史・文化的背景の理解
三線および三線音楽が歩んできた歴史的背景を学び、伝統音楽が持つ現代的な存在意義や文化的価値を理解する。
④指導法の修得
子どもたち（あるいは学習者）が郷土の伝統音楽に愛着を持ち、主体的に関わることができるような、効果的な指導法や授業展開の工夫を学ぶ。</td></tr>
<tr><td rowspan="13">スケジュール</td><td></td><td>実施内容</td><td>実施方法</td></tr>
<tr><td>9:00〜9:30</td><td>受付</td><td>音楽棟４階 小合奏室</td></tr>
<tr><td>9:30〜10:45</td><td>開講式・理論研修（教科調査官）</td><td>参集／登壇</td></tr>
<tr><td>10:45〜11:00</td><td>休憩</td><td></td></tr>
<tr><td>11:00〜12:00</td><td>テーマ別実践研修（午前の部）
「１、講義」、「２、実技研修」・三線の初歩的な扱い方</td><td>参集（講義・演習）</td></tr>
<tr><td>12:00〜13:00</td><td>昼食</td><td></td></tr>
<tr><td>13:00〜14:30</td><td>テーマ別実践研修（午後の部）「３、実技研修」</td><td>参集（演習）</td></tr>
<tr><td>14:30〜14:40</td><td>休憩</td><td></td></tr>
<tr><td>14:40〜15:40</td><td>テーマ別実践研修（午後の部）「４、実技研修」</td><td>参集（演習）</td></tr>
<tr><td>15:40〜15:50</td><td>休憩　教室移動</td><td>音楽棟４階 大合奏室</td></tr>
<tr><td>15:50〜16:40</td><td>琉球古典音楽・沖縄民謡の鑑賞及び成果発表会　「２、鑑賞」「３、実技研修」</td><td>参集（鑑賞・演習）</td></tr>
<tr><td>16:40〜17:00</td><td>全体講評・振り返り（教科調査官）</td><td>参集</td></tr>
<tr><td>17:00</td><td>アンケート提出後、研修終了</td><td></td></tr>
<tr><td>教材・
持ち物等</td><td colspan="3">・筆記用具
・三線やバチは大学でも用意しますが、持参できる方は持参してください。</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="3">〇資料の配布方法：当日会場にて配布します。
〇事前・事後課題の有無：特になし
〇受講する上での環境条件等：特になし
〇学食が利用できます。
〇近隣に飲食店（沖縄そば、カレー、定食など）やコンビニはあります。</td></tr>
</table>

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音５】

【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）　　【実施日】令和８年１２月９日（水）

担当大学名	東京藝術大学			
会　場	（会場名）　東京藝術大学上野キャンパス Arts & Science LAB球形ホール （所在地）　東京都台東区上野公園１２－８			
講　師 （肩書・氏名）	池上眞吾（生田流箏曲演奏家）、石本かおり（生田流箏曲演奏家）			
対　象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 （該当欄に〇）	参集　〇 オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	箏を用いた授業づくり～器楽から創作へ～
研修内容の概要	本研修では、箏を用いた器楽活動から創作活動へと発展する授業づくりについて、講義と演習を通して学ぶ。実際に箏に触れながら、基本的な奏法や音色の特徴について理解を深めるとともに、日本の音階や箏特有の奏法を生かした創作活動を体験する。さらに、演奏を通して得た気付きや表現の工夫を創作へとつなげる授業展開を検討し、器楽と創作の関連を図った学習過程や指導の工夫について理解を深める。
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科：第１学年，第２学年及び第３学年／「Ａ表現」（2）「器楽」ア，イ(ｱ)(ｲ)，ウ(ｱ)(ｲ)，(3)「創作」ア，イ(ｱ)(ｲ)，ウ，〔共通事項〕(1)ア，イ 高等学校芸術科：音楽Ⅰ，音楽Ⅱ／「Ａ表現」（2）「器楽」ア，イ(ｱ)(ｲ)(ｳ)，ウ(ｱ)(ｲ)(ｳ)，(3)「創作」ア，イ，ウ(ｱ)(ｲ)(ｳ)，〔共通事項〕(1)ア，イ 音楽Ⅲ／「Ａ表現」（2）「器楽」ア，イ(ｱ)(ｲ)，ウ，(3)「創作」ア，イ，ウ，〔共通事項〕(1)ア，イ
内容と方法	本研修では、講義と実技体験を通して、箏を活用した授業の構想と指導方法について実践的に学ぶ。はじめに、実際に箏に触れながら、その構造や基本的な奏法、音色の特徴について理解を深め、学校現場で活用する際の指導上の留意点を確認する。続いて、日本の音階や箏特有の奏法を生かした即興や創作の活動を体験し、生徒が試行錯誤しながら思いや意図（表現意図）を音で表現していく学習過程について考察する。さらに、演奏活動を通して得られた気付きや表現上の工夫を創作へと発展させる授業展開の在り方について検討する。研修のまとめでは、受講者同士の意見交流を通して実践上の課題や工夫を共有し、主体的・対話的な学びを支える指導の視点を深める。
到達目標	箏の構造や基本的な奏法、日本の音階や音色の特徴について理解するとともに、各学校の実態に応じて、器楽と創作の関連を図った授業づくりを工夫することができる。

スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修①：箏の奏法と表現の工夫の可能性	参集（講義・演習）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:30	テーマ別実践研修②：箏を用いた創作活動（個人、グループ）	参集（演習）
	15:50～16:20	テーマ別実践研修③：発表と相互評価	参集（演習）
	16:20～16:40	振り返り・質疑応答	参集（グループワーク）
	16:40～17:00	全体講評（教科調査官）	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	

教材・持ち物等	箏爪をご準備いただける方は、当日お持ちください。お持ちでない方には大学よりお貸しいたします。
特記事項	〇資料の配布方法：当日配布 〇事前・事後課題の有無：無 〇受講する上での環境条件等：学内に学食はございますが、混雑が予想されます。

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音６】

【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）　　【実施日】令和８年１２月９日（水）

担当大学名	徳島文理大学			
会　場	（会場名）　徳島文理大学徳島キャンパス　５号館６階５６１０室（合唱室） （所在地）　徳島県徳島市山城町西浜傍示180			
講　師 （肩書・氏名）	徳島文理大学副学長・同音楽学部教授　佐野靖 徳島文理大学音楽学部副学部長・教授　原井俊典			
対　象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 （該当欄に〇）	参集　〇 オンライン	１０名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	「創造性を育む音楽科のICT実践論 ～デジタル技術を用いた表現・鑑賞の指導と評価～」
研修内容の概要	本研修は、中学校音楽科・高等学校芸術科音楽において、ICT（携帯端末、タブレット端末、DAWソフト等）を効果的に活用し、生徒の創造性を引き出すための授業設計と評価方法を学ぶものです。「機材の操作方法」の習得にとどまらず、「テクノロジーによって、これまで困難だったどのような音楽体験が可能になるか」という本質的な視点に立ち、具体的な実践論を展開します。 [学習指導要領との関連] 中学校音楽科：第１学年、第２学年及び第３学年「Ａ表現」(3)創作ア、イ(ｱ)(ｲ)、ウ　「Ｂ鑑賞」(1)鑑賞ア(ｱ)、イ(ｱ)　〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科（音楽）：音楽Ⅰ、音楽Ⅱ「Ａ表現」(3)創作ア、イ、ウ(ｱ)(ｲ)(ｳ)　「Ｂ鑑賞」(1)鑑賞ア(ｱ)、イ(ｱ)　〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ「Ａ表現」(3)創作ア、イ、ウ　「Ｂ鑑賞」(1)鑑賞ア(ｱ)、イ(ｱ)　〔共通事項〕(1)ア、イ
内容と方法	①創作および鑑賞の今日的課題についての理解 ②従来の五線譜による創作ではなく、音楽アプリを用い、直感的な創作から徐々に音楽の構造（構成音、反復、変化）へとアプローチするステップを習得 ③聴いた音を言語化・視覚化し、他者と共有することで、音楽の構造や背景への理解を深めるアプローチ ④作品およびプロセスの評価、相互評価、自己評価等についてディスカッション
到達目標	① ICTを「生徒の表現の可能性を広げ、支援するためのツール」として捉え直すことができる。 ②生徒や学校の実態に応じて、創作と鑑賞を関連づけた指導を工夫することができる。 ③ICTを活用した授業の改善に向けて指導法や学習内容に関する新たな視点や方法を考察することができる。

スケジュール

	実施内容	実施方法
9:00～9:30	受付	
9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：視学官）	参集／登壇
10:45～11:00	休憩・会場移動	
11:00～12:00	創作及び鑑賞の今日的課題	参集（講義）
12:00～13:00	昼食	
13:00～15:00	音楽アプリを使った創作	参集（演習・各自作業）
15:10～16:00	創作作品の分析と批評：音の言語化から始めるアプローチ	参集（グループワーク）
16:10～16:40	グループディスカッション	参集（グループワーク）
16:40～17:00	振り返り（視学官）と質疑応答	参集
17:00	アンケート提出後、研修終了	

教材・持ち物等	①音楽アプリがインストールされている携帯端末もしくはタブレット端末、PCなど。②筆記用具
特記事項	◯資料の配布方法：当日配布 ◯事前・事後課題の有無：無 ◯受講する上での環境条件等：無 ◯昼食に関する情報：学内の学食「パウゼ」、カフェ「ロティ」、ファミリーマートを利用できます。また近隣にもカフェ、レストラン、コンビニがあります。

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音７】

【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）　　【実施日】令和８年１２月１１日（金）

担当大学名	東京音楽大学			
会　場	（会場名）　東京音楽大学　池袋校舎 （所在地）　東京都豊島区南池袋３－４－５			
講　師 （肩書・氏名）	福田裕美（東京音楽大学教授）小日向英俊（東京音楽大学附属民族音楽研究所長）他			
対　象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 （該当欄に〇）	参集　〇 オンライン	30

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	諸民族の音楽の考え方・教え方～要点と実践ワークショップ
研修内容の概要	世界の音楽と文化についての理解の仕方を多角的に学びます。知識と実践を結びつけ、諸民族の音楽文化に関する授業展開に役立つトピックを取り上げていきます。
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科： 第１学年、第２学年及び第３学年／「Ａ表現」(2)「器楽」ア、イ(ｱ)(ｲ)、ウ(ｱ)(ｲ)　(3)「創作」ア、イ(ｱ)(ｲ)、ウ　「Ｂ鑑賞」(1) ア(ｱ)(ｲ)(ｳ)、イ(ｱ)(ｲ)(ｳ)　〔共通事項〕⑴ア、イ 高等学校芸術科： 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「Ａ表現」(2)「器楽」ア、イ(ｱ)(ｲ)(ｳ)、ウ(ｱ)(ｲ)(ｳ)、(3)「創作」ア、イ、ウ(ｱ)(ｲ)(ｳ)、ウ(ｱ)(ｲ) 「B鑑賞」(1) ア(ｱ)(ｲ)(ｳ)、イ(ｱ)(ｲ)(ｳ)、〔共通事項〕⑴ア、イ 音楽Ⅲ／「Ａ表現」(2)「器楽」ア、イ(ｱ)(ｲ)、ウ　(3)「創作」ア、イ、ウ　「B鑑賞」(1) ア(ｱ)(ｲ)(ｳ)、イ(ｱ)(ｲ)(ｳ)(ｴ) 〔共通事項〕⑴ア、イ
内容と方法	①世界の国や地域の音楽と文化について、様々な視点と理解の仕方を整理します。 ②実際の民族楽器を使用したデモストレーションとワークショップを体験します。 ③動画・資料を使用して多文化の音楽を紹介し、授業での活用のヒント・工夫などについてまとめます。
到達目標	音楽の根源や捉え方を多面的に捉え、様々な文化の音楽の楽しさと奥深さを知るとともに、生徒の関心や知識に合わせた授業・指導実践での活用方法を習得する。

スケジュール

	実施内容	実施方法
9:00～9:30	受付	
9:30～10:45	開講式・理論研修（教科調査官）	参集／登壇
10:45～11:00	休憩・会場移動	
11:00～12:00	世界の音楽文化の理解と要点	参集（講義）
12:00～13:00	昼食	
13:00～14:30	ワークショップ１～多文化音楽の理論と実践１	参集（グループワーク）
14:30～14:45	休憩	参集（グループワーク）
14:45~16:30	ワークショップ２～多文化音楽の理論と実践２、発表と振り返り	参集（グループワーク）
16:40～17:00	全体講評・振り返り（教科調査官）	参集
17:00	アンケート提出後、研修終了	

教材・持ち物等	特になし（もしあれば、マラカスなど身近で持参可能な楽器）
特記事項	〇資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード 〇事前・事後課題の有無：なし 〇受講する上での環境条件等：身動きのしやすい服装でご参加ください。 〇昼食は、学生食堂がご利用いただけます。近隣に飲食店、コンビニ有り。

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美４】

【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術）　　【実施日】令和８年１２月８日（火）

担当大学名	女子美術大学			
会　場	（会場名）　女子美術大学 相模原キャンパス （所在地）　神奈川県相模原市南区麻溝台1900			
講　師 （肩書・氏名）	藤田百合（女子美術大学 准教授）、高橋智子（女子美術大学 准教授）			
対　象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （該当欄に〇）	参集　〇 オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	美術館を活用した鑑賞教育		
研修内容の概要	学校教育における美術館活用における意義と方法、活用から得られる学びについて考える。実際に、オリジナル作品から得られる「鑑賞」の体験をした上で、美術館を活用した授業づくりを検討する。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科　：「B鑑賞」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)　〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科：　美術Ⅰ／「B鑑賞」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)　〔共通事項〕(1)ア、イ 美術Ⅱ／「B鑑賞」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)　〔共通事項〕(1)ア、イ 美術Ⅲ／「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(ア)　〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	研修では、美術館を活用した鑑賞授業の実践事例を紹介する。また、本学の美術館を活用して鑑賞体験を行う。美術館を訪れる前の事前学習や、地理的条件などにより美術館へのアクセスが難しい場合に活用できる鑑賞補助教材「アートカード」について、その活用方法の紹介と実践も行う。		
到達目標	・美術館を活用した鑑賞に関する知見を広め、美術館と連携した鑑賞教育について構想する。 ・学習指導要領に沿った鑑賞の授業について理解を深める。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	美術館を活用した鑑賞教育の実践事例	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:30	美術館での鑑賞および鑑賞補助教材の紹介と実践	参集
	14:30～14:40	休憩	
	14:40～15:40	美術館と連携した鑑賞教育の授業づくりの検討	グループワーク
	15:40～16:00	全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	16:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	〇資料の配布方法：研修会場で配布 〇事前・事後課題の有無：無 〇受講する上での環境条件等：無		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美５】

【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術）　　【実施日】令和８年１２月１０日（木）

担当大学名	京都市立芸術大学			
会　場	（会場名）　京都市立芸術大学			
	（所在地）　京都府京都市下京区下之町57－1			
講　師 （肩書・氏名）	美術学部　日本画専攻　教授　川嶋渉 美術学部　共通教育　教職担当　教授　飯田真人			
対　象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集　○ オンライン	30名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	ものの見方～京芸の日本画基礎教育を学ぶ～		
研修内容の概要	本学の日本画専攻は、1880年に日本初の公立絵画専門学校として開設されて以来、日本画の制作指導と制作理論の研究を行ってきました。学生は連綿と続いてきた基礎技術の指導により表現技法を修得した上で、現代における日本画表現と技法を学び、日本画の制作を行なっています。 その基礎では「ものの見方」として写生を軸にしたさまざまなアプローチを行い、対象への観察姿勢を養います。本研修では本学の日本画基礎の一つである墨の線による写生を通して、日本画の基礎を体験するとともに、絵画における「ものの見方」について考察します。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科（第1学年及び第2・3学年）：Ａ表現(1)ア(ｱ)、(2)ア(ｱ)(ｲ)　Ｂ鑑賞(1)ア(ｱ)、イ(ｲ)　〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科（美術Ⅰ）：Ａ表現(1)ア(ｱ)(ｲ)、イ(ｱ)(ｲ)、　Ｂ鑑賞(1)ア(ｱ)、イ(ｲ)　〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	午前の飯田の講義では、〔共通事項〕に着目し、材料や感覚と知識や技能の関係についてお話しします。 午後からは、川嶋から本学の日本画基礎について講義したのち、「墨の線」による様々な技法やものの捉え方について写生を通して学び、「ものの見方」について考察します。		
到達目標	墨の線による絵画の豊かな表現を知るとともに生徒が感覚を通して形や色彩などに触れ、造形的な見方・考え方を働かせ、〔共通事項〕に示している内容について実感的な理解を深めることができる表現や鑑賞の授業を行えるようにする。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	講義「感覚を通して思考を深める美術教育」（飯田）	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:30	講義「京芸の日本画基礎」（川嶋）	参集
	13:30～14:45	実技「墨の線で描く」（川嶋）	参集
	14:45～15:00	休憩	
	15:00～16:30	実技「墨の線で描く」（川嶋）	参集
	16:40～17:00	全体講評	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	特にありません。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○画材を使用して制作活動を行いますので作業しやすい服装をご準備ください。（更衣室もあります） ○受講する上での環境条件等：昼食会場として学生食堂をご利用いただけますが、混雑している可能性があります。		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美６】

【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術）　　【実施日】令和8年12月11日（金）

担当大学名	武蔵野美術大学			
会　場	（会場名）　武蔵野美術大学鷹の台キャンパス2号館			
	（所在地）　東京都小平市小川町1-736			
講　師 （肩書・氏名）	空間演出デザイン学科教授・鈴木康広　美術教育･教職課程研究室教授・三澤一実			
対　象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集　○ オンライン	30名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	コミュニケーションを生み出すデザインを考える		
研修内容の概要	本研修では、造形的な視点を手がかりに、身近なものの見方や捉え方を広げながら、新たな発想を生み出すコミュニケーションのあり方について考えます。私たちは日常の中で多くの言葉や情報を共有していますが、その過程で一人ひとりの感覚や気づきが十分に伝わらないことがあります。本研修では、造形的な見方や情報デザインの考え方を取り入れながら、個々の違いや発想を生かしたコミュニケーションの可能性を探ります。また、対話を通してアイデアを引き出し、共有し、発展させるプロセスについて実践的に学びます。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現⑴イ(ｲ)(ｳ)、⑵ア(ｱ)(ｲ)、B鑑賞⑴ア(ｲ).イ(ｱ)、〔共通事項〕⑴ア.イ 高等学校芸術科（美術）：A表現⑵ア(ｱ)(ｲ)、イ(ｱ)(ｲ)、B鑑賞⑴ア(ｲ)、イ(ｱ)、〔共通事〕⑴ア.イ		
内容と方法	研修では、身近な対象を改めて観察し、その特徴や関係性を捉える手法として「スケッチ」に着目します。ここでいうスケッチは、単に絵を描くことではなく、対象を観察し、理解し、他者と共有するための思考のプロセスとして位置づけます。ワークショップでは、一般的な美術表現ではあまり用いられない素材や材料、方法も取り入れながら、人と人、人とモノとの関わりに目を向けます。参加者同士がそれぞれの視点や発想を共有し合うことで、多様な見方や考え方に触れ、新たな気づきを得る機会をつくります。複数のワークショップを通して、コミュニケーションを促すための手法や思考法を体験的に学びます。そして、造形的な視点から生まれる個々の気づきや発想の価値を理解し、それらを創造的なコミュニケーションへとつなげる力を養うことを目指します。		
到達目標	①日常の風景から気になる形を抽出してスケッチに表すことができる。②抽出した形の面白さを感じ取り、見方や感じ方を深めることができる。③抽出した形をそれまでの意味とは異なる形として発想や構想をすることができる。④発想を通して新たなコミュニケーションを生み出すことができることを理解する。上記の①～④の資質・能力の育成と〔共通事項〕に示すことを理解できるよう指導について考えることができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（美術・平田教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	講師の作品を鑑賞し、研修内容について理解する（鈴木）	講義
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:15	ワークショップに関する説明	演習
	13:15～14:45	ワークショップ(適宜休憩を入れる)	演習
	14:45～16:15	発表・講評	講評
	16:15～16:45	学習指導要領との関連を確かめる（三澤）	講義
	16:45～17:00	全体講評（振り返り）（平田教科調査官）	講評
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	ふだん使用しているノートやスケッチブックとペン、持参できる緑色のもの、透明なもの、使い慣れた定規		
特記事項	特になし		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【高書２】

【分科会】高等学校芸術科（書道）　　【実施日】令和８年１２月９日（水）

担当大学名	愛知教育大学			
会　場	（会場名）　愛知教育大学 （所在地）　愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１			
講　師 （肩書・氏名）	愛知教育大学教授　衣川彰人　　日本芸術院会員　髙木聖雨　　愛知県立愛知商業高等学校教諭　加藤眞太朗			
対　象	高等学校芸術科（書道）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集　○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	高等学校芸術科書道における「漢字の書」の創作指導の工夫　－作品の構想と表現の工夫の視点－		
研修内容の概要	現職教員の講師による教育現場における課題の発表と研修会参加者による協議、書壇で活躍している講師による「漢字の書」の創作についての実技指導と研修会参加者の実技演習、教科調査官による指導・講評を通して、現行学習指導要領の趣旨に基づき、「漢字の書」の創作の指導力の向上を図るとともに、「漢字の書」の創作の授業での指導の工夫について理解を深める。		
	[学習指導要領との関連] 高等学校芸術科（書道）： 主として A 表現・・・・・・（２）漢字の書　ア（ア）（イ）（ウ）、イ（ア）（イ）、ウ（ア）（イ） B 鑑賞・・・・・・（１）ア（ア）（イ）、イ（ア）（イ）（ウ） 〔共通事項〕・・・（１）ア、イ		
内容と方法	・教科調査官による理論研修（高等学校芸術科書道に係る行政面からの解説） ・現職教員による授業研究発表（「書道Ⅰ」「漢字の書」の創作指導）と研修会参加者による協議 ・書壇で活躍している講師による「漢字の書」の創作の実技指導と解説、研修会参加者の実技演習 ・教科調査官による指導・助言		
到達目標	・学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容、授業改善の視点について理解を深める。 ・「漢字の書」の創作における作品の構想と表現の工夫について、実技演習を通して理解を深める。 ・学習指導要領の趣旨を踏まえ、「漢字の書」の創作指導の授業並びに指導を工夫できる指導力を身に付けるようにする。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式、理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集（研究発表・協議）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	テーマ別実践研修（午後の部①）	参集（実演）
	14:00～14:15	休憩	
	14:15～16:30	テーマ別実践研修（午後の部②）	参集（演習・実技指導）
	16:30～17:00	全体講評・振り返り（教科調査官）	参集（全体講評）
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	書道用具（下記資料とともに提示）、『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 芸術編』（書道記載部分）		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：有 ○受講する上での環境条件等：無		